資料3

# まちづくり協議会へのヒアリング調査の結果について

ヒアリング期間：令和６年１月２３日～３１日
対象　　：市内１４学区のまちづくり協議会
方法　　：まちづくり協働課職員による１時間程度の聞き取り
ヒアリング項目：

| | |
|---|---|
| 【組織体制について】 | |
| | 担い手不足が全市的な課題と考えていますが、新たな人材が参画するように、工夫されていることはありますか。 |
| | 地域のボランティアや市民活動団体との関わり方について、工夫されていることはありますか。 |
| | 新たな担い手の発掘につながるよう、市やコミュニティ事業団等で行っている事業に参加されたことはありますか。参加してよかった点、変わった点はありますか。どのような企画であれば参加したいですか。 |
| 【地域まちづくりセンターの活用】 | |
| | 地域まちづくりセンターを活動拠点としている団体との連携事例はありますか。 |
| | 地域まちづくりセンターの活用について、今後やってみたいことがあれば教えてください。 |
| 【基礎的コミュニテイとの関係】 | |
| | 基礎的コミュニテイ（町内会）とは日頃どのように関わられていますか。 |
| | 基礎的コミュニテイ（町内会）からはどのような意見や相談がありますか。 |
| 【情報の送受信について】 | |
| | 活動を行う上で必要な情報を教えてください。また、どのような方法での受信が望ましいですか。 |
| | 地域内への情報発信について、工夫されていることはありますか。効果的な事例などがあれば教えてください。 |
| | 他学区との交流や情報共有をどのように行っていますか。 |
| 【現計画の進捗状況】 | |
| | 市が作成している協働のまちづくり推進計画を知っていますか。 |
| | 地域の現状や課題、住民ニーズをどのような方法で把握していますか。 |
| | 4年前と比べて、地域やまちづくり協議会で良くなった点を教えてください。 |
| | 4年前と比べて、地域やまちづくり協議会で課題となっていることを教えてください。 |
| | 他の主体と連携・協力している事例があれば教えてください。（市・市民活動団体・中間支援組織・教育機関など） |
| | 今後、どのような場面で、他の主体と連携・協力したいですか。 |
| 【その他】 | |
| | 協議会の運営や事業について、どこに相談していますか。どのような支援が必要ですか。 |
| | 新型コロナウイルス感染症の影響はどうでしたか。コロナ禍の前後で地域活動が変わったことはありますか。 |

**論点：① 下記ヒアリング結果を参考にまちづくり協議会や町内会の課題をまとめる**
**② ①の課題を踏まえたまちづくり協議会の今後の方向性を考える**

ヒアリング結果：
・ヒアリング結果について、論点が整理しやすいようカテゴリー別にまとめました。
・課題は青色、課題に対する解決策や好事例は黄色、その他の項目は緑色に着色しています。

## Ⅰ．組織体制について

ヒアリングの様々な質問の中で、担い手不足が多くの学区で課題となっている事、担い手不足解消のために様々な工夫をされている事が分かりました。また、中間支援組織の助言・支援が新たな取組につながっているという事も分かりました。ここでは、取組の方法別に意見をまとめました。

**組織の運営方法**

・まち協の部会や委員会、事業について、町内会を通じてメンバーを選ぶのではなく、希望者を募る方法による運営形態を取り入れている。
・プロジェクト（部会）の全ての事業に関わると負担が大きいため、それぞれがやりたい事業のみに参加できるようにしている。
・若い人が興味を持てるようなプロジェクトを作り、参画してもらいやすくしている。
・職員が地域に出て、地域の事業者や福祉施設、お寺などと繋がりを作って参画を促している。

**ボランティア**

・広報誌にまち協事業へのボランティア募集の記事を出した
・PTA からの選出などにより役員として参加した人が、役員を退任後もボランティアとして関ってもらえるよう声掛けをしている
・ボランティア育成検討委員会を設置したが、中々良い案が生まれなかった。
・有償ボランティアの仕組みを作りたいが、既存の無償ボランティアとの線引きが難しい。

**年代別アプローチ**

・定年退職後の世代に関わってもらえるように他学区の事例研究をしている。
・子育て世代の参画を促すために、親子で参加できる事業を企画している
・今までセンターに来ていなかった働き世代を対象に、テーマを決めずに集まって雑談するおしゃべり会を開催。口コミやチラシで参加者を集めた。

## ２．基礎的コミュニティ（町内会）との関係について

町内会とまちづくり協議会の関係について、項目別に意見をまとめました。

**まち協事業の負担**

・まち協部会に町内会からの委員選出をお願いしているが、全ての町内会ではなく、参加してもらえる一部の町内会（半数以下）である。町内会が弱くなっているのでまち協と町内会への関わり方について検討が必要。

・町内会からは、委員選出が負担、部会の仕事が負担等の意見があり、負担軽減のためまち協から退会したいという意見もある。

・町内会からまち協の委員会や各種団体（青少年、体育振興等）に人を出してもらっているが、毎年同じメンバーになることも多く、町内会から新たな担い手が見つからないと相談を受けている。

・まち協部会に町内会からの委員選出をお願いしている。部会の仕事はほぼ事務局が携わっているので、町内会からの負担が大きいといった意見はないが、事務局の負担がある。

**まち協に加入しない町内会**

・まち協に加入していない町内会に住んでいる人も、子ども関係のイベントには参加するため不公平感があった。部会とは別に子どもイベントのプロジェクトチームを立ち上げ、まち協に加入していない町内会の保護者も対象としてボランティアを募った。

・まち協に加入していない町内会からも行事への参加があるため、まち協部会への加入は難しくとも、イベントでは運営側に回ってもらえるよう働きかけている。

**町内会長会**

・町内会の役員が１年交代で継続性がないため、町内会長会でも意見があまり出てこない。

・町内会長の任期が短く、まち協の役割があまり認知されていないため、まち協会費への苦情がある。

・町内会長会でまちづくりに関する各町内会の考え方や困りごとについて課題出しを行い、まち協で解決策を考えている。町内会の困りごと（空き家の草刈り）を、まち協でボランティアを募って解決した事例がある。

**新旧町内会**

・古くからある町内会と、新しく設立された町内会では、居住している世代に開きがあるため、まち協に求められる事業や希望する参加形態が異なってくる。意見が合わずまち協から退会を考えている町内会もある。

## ３．情報の送受信について

情報に関する意見を項目にまとめました。情報を得て新たな取組に繋げたいという意見がある一方、先進事例を教えてもらっても実践は難しいという意見もありました。

**他学区の取組**

・他学区の取組について知りたい。特にプロジェクト制等の組織運営の工夫や、LINE の具体的な運用方法について参考にしたい。
・他学区と情報交換の場がほしい。会議の場ではなく、テーマを決めずに気軽に話せる場が望ましい。
・他学区の情報について、電話で聞くほどの事でなくとも、事例集のようなもので確認できると有難い。

**先進事例**

・ボランティアとまち協や困っている住民をつなぐ仕組み作りについて、先進地の取組が知りたい。
・有償ボランティアで成功している全国の事例情報が欲しい。
・全国のまちづくりに関する研修の情報が知りたい。
・町内会長の負担軽減の情報が欲しい。

**人材・団体**

・人材バンクのような、地域における人材の情報が欲しい。地域でワークショップをする際のファシリテーターや、防災計画を策定する際の防災士など。
・協力してくれそうな団体の情報が欲しい。

**まち協からの情報発信について**

・LINE を活用している（９学区）、LINE の活用予定がある（１学区）
・高齢者が多いため紙媒体での周知が中心となっている。

## ４．現計画期間中の良かったこと

取組内容や手法の工夫をすることで、事業に関わる人が増えたことや、他主体との連携が始まったことが多く挙げられました。

・プロジェクト制を導入したことで、まち協の事業に関わる住民が多世代で増えた。
・時代に合った取組となるよう積極的に事業の見直しを行った。
・若い世代の参加が増えた。取組が注目され、学区外からの行事参加も増えた。
・地域の薬局や介護施設など、多様な機関との連携が生まれてきた。
・市民活動団体との連携事業が生まれてきている。
・ボランティア団体主導の企画ができた。
・学区防災訓練を実施したことで、まち協に加入していない町内会の参画が図れた。
・支え合い運送事業が始まった。
・地域での孤独死を受け、見守りの重要性に気付いた。配食サービスで月に１度の見守りを行っている。

## ５．現計画期間中に出てきた課題

共通して、高齢化や担い手不足の課題が挙がりました。

**高齢化**

・高齢化を顕著に感じる。久しぶりに運動会を実施しようとした際に、参加しない町内会があった。今までは無理をして実施してきた事業も一度間が空いたことで無理してまでしなくてもよいという風潮になっている。
・まち協の事業を運営する人が増えず、同じメンバーでしているので高齢化していく。これまでの事業が成り立たなくなってしまう。
・高齢化に伴い、認知症や孤独死の問題が出てきている。
・高齢化が進んでいるため、移住につながるような取組をしていきたい。

**担い手不足**

・まち協から町内会が抜けたり、町内会を抜ける住民がいたり、地域組織が弱くなっていると感じる。
・次期プロジェクトリーダーの育成が進んでいない。
・地域から若い人が出ていくので、学区内だけで人材を見つけようとすると担い手確保が難しい

## ６．連携・協力している主体について

連携･協力している団体を尋ねると、地縁に依る団体（学区社協、学区体育振興会等）が最も多く挙がりました。ここでは、地縁に依らない連携先について記載しています。

・ボランティア団体（市民活動団体）
・立命館大学地域連携課
・UDCBK
・地域の企業、福祉事業所、病院
・市まちづくり協働課、健康福祉政策課、人とくらしのサポートセンター、健康増進課環境政策課

## ７．その他（事業について）

事業については、ふれあいまつり等と、センターでの居場所づくり事業についての内容が多かったため、事業別にまとめました。

**ふれあいまつり等**

・地域の状況を踏まえて、夏祭りを子ども向けのイベントに変え、開催場所も子どもが多い新しい町内会の近くの公園へ変更した。
・コロナ禍をきっかけに、各団体に依頼していた模擬店をやめてキッチンカーにした。事務局の負担軽減につながった。
・各町内の負担軽減のため、模擬店を減らしてキッチンカーにしたが、それを元に戻すのが難しい。町内会だけでなく、各種団体や飲食店の参加を増やしていきたい。
・コロナ後にイベントは復活したが、高齢化もあり、モチベーションは上がっていない。

**センターを活用した居場所（カフェ）**

・ボランティアによるカフェを定期的に運営している。
・サロンにウォーターサーバーを置いて居場所づくりに活用している。
・ロビーに椅子と机を置いたことで、利用者が話をしたり、散歩の高齢者が休憩に来られたりするようになった。
・自主教室やセンター事業の参加者が活動後も滞在できる空間を設けて、つながりができるようにしている。
・センター講座が終わった後につながりを作ることが大切なので、講座の後にカフェをしたいと思っている。
・カフェをしたいが、サロンが２階で立ち寄りにくい。２階の庭園を誰でもフラっと立ち寄れる居場所にしたい。